

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

千客万来

利水者と向き合う毎日

入社7年目の鎌田幸平、32歳。「現場、に2か所勤務した後、昨年4月から本社の「関東事業担当」に配属となった。彼が見つけた関東事業担当の仕事の魅力とは？

「どこに相談すれば？・・・」を解決

水資源機構は、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」をモットーに、利水者（水道用水・農業用水・工業用水・発電等）に水を供給している。関東管内の利水者の総合的窓口となるのが「関東事業担当」だ。平成20年に本社内に新設されたが、そもそも、なぜ関東事業担当が設



Profile

本社 関東事業担当

鎌田 幸平 Kohei Kamata

平成20年水資源機構入社。土木職として、大山ダム建設所（大分県）で工事の検査、ダム施設の設計を経験。その後、豊川用水総合事業部（愛知県）に異動し、水路の配水管理や頭首工管理などを担当。平成25年4月より現職。

置されたのか？

この疑問に鎌田が答える。「関東管内の業務は、本社が支社的機能も兼ねていますが、各部室個別の対応となっていたため、利水者等から対応の縦割りへの不満があったのが発端です。受ける案件は様々で広範囲ですが、そこが我々関東事業担当の腕の見せ所です。関東事業担当という窓口ができたことで、利水者からみた利便性は、以前よりも向上したと思っています。」

「調整、に始まり」調整、に終わる

ズバリ、関東事業担当の仕事を一言で表すと？再び鎌田が口を開く。「関東事業担当の仕事は調整することに尽きます。利水者の方から受ける相談は、関東事業担当内で収まる案件は少なく、本社内の他部署との調整が必要な場合がほとんどです。そのため、担当部署に案件を流し、

それに対する回答を共に考え、素早く回答を返せるように努めています。内容によっては、すぐに返答できないものもありますが、担当部署に確認しつつ適切な回答を返せるように努力しています。時には、利水者が求める資料を関係部署とともに作成することもあるとあって、利水者が理解しやすい資料になるように意見を出したりもしますね。」

「従来通り」ではないケースに直面することも多く、利水者と機構の間に立ち、悩むことも少なくないようだ。「そんなときは、関係部署の職員も交えて知恵を出し合いながら解決の糸口を探します。」

鎌田が続ける。「それと、情報共有も大切ですね。関東管内に関わる本社内部の情報共有の会議運営も関東事業担当の仕事ですが、どこの部署がどういう案件を抱えているのか把握するとともに、各現場事務所との調整役としての機能を果たしています。利水者の方にも、適宜情報提供しますが、誤った情報は混乱させてしまうので、細心の注意を払っています。」

利水者の元に出向くこともあるのだろうか？

「利水者にお金を負担していただくことで、施設の建設・管理が成り立っています。予算などの利水者向け説明会をセットするのは私の仕事ですし、関連部署の職員とともに説明会に行つて司会進行やメモ取りをやったりしますね。その他にも一般の方に向けて機構事業のPRをしたりもしますよ。先日も本社の近くで水の日(8月1日)キャンペーンがあり、機構のブースを企画・展示し、水の大切さや機構事業をPRしました。」

モチベーションは生の声

現場から関東事業担当に移って約1年半、鎌田が感じる環境の違いはあるのだろうか？

「現場で働いている頃は、いかに施設の建設・管理をうまく進めるかが中心で、利水者がどういうことを気にしているかを知る機会が少なかったですが、今は『機構にこうしてほしい』『機構のここがすばらしい(ダメだ)』などの生の声を直に聞けるので、それらをひとつずつ改善・解決し



ていくのがやりがいであり、モチベーションにつながっています。」といきいきと語ってくれた。

その一方で、今の仕事は、責任が重くのしかかるという。「仕事上で多くの人と関わるため、どう調整すれば関係者の負担が少なく、かつ効率的に課題を解決できるかを考えて行動する必要があり責任を強く感じますが、よいプレッシャーにしています。仕事の進め方、例えば『ここに話しておかないと、こういう問題が生じる可能性があるから情報共有しておこう』などの段取りや相手への伝え方は上司から学ぶことが多いですね。」

真面目で丁寧な仕事ぶりは、上司からの信頼も厚く、「鎌田さんの良いところは、上司の会話を良く聞いているところで、上司の話に耳をそばだてる何気ないことが、将来きっと役に立つはず。」と期待している。



新婚の鎌田さん。「結婚して身近に話し相手がいるっていいですね。毎日が楽しいし、生活が規則的になって健康的になりましたね。」と満面の笑み♡